龍ケ崎市ゼロカーボンシティ宣言

昨今、地球温暖化により世界の平均気温は上昇し、世界各地及び国内で異常気象などの気候変動問題が顕在化しています。

龍ケ崎市においても、牛久沼や小貝川などの流域を抱えていることから、気候変動による気象災害は極めて深刻な脅威となっており、2023 年６月に発生した牛久沼における越水被害は、記憶に新しいところです。

このまま気温が上昇すれば、影響は更に深刻化するため、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出削減に取り組むことが世界全体及び国内における喫緊の課題となっており、2015 年に合意されたパリ協定では、「産業革命前からの平均気温の上昇幅を２℃より十分下回るものに抑えるとともに、1.5℃に抑える努力を追求する」ことが世界共通の目標とされました。

このような中、2021 年に国は、2050 年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち「2050 年カーボンニュートラル」の実現を目指すことを宣言しました。

このような流れを受けて本市では、2024 年 10 月に「龍ケ崎市第２次環境基本計画」の一部見直しを行い、2050 年カーボンニュートラルを見据えた形で、2030 年度までの温室効果ガス削減目標を定めたところです。

同計画では、本市の将来の環境像を「かけがえのない自然を未来へ　人や地球にやさしい環境のまち　龍ケ崎」としています。

これは、将来の世代が自然の恵みを受け続け、良好な生活環境や地球環境のもとで暮らしていける、持続可能な社会を目指すものです。

本市は、白鳥が飛び交う牛久沼をはじめとする水辺空間、里山の環境が保全されている北部の台地、南部に広がる水田地帯など、水と緑に恵まれた豊かな自然環境を有しており、現在を生きる私たちには、このかけがえのない財産を守り、未来のこどもたちに引き継いでいく責務があります。

このことから、本市は、市民、地域及び事業者とともに、地球温暖化がもたらす気候変動が私たちの暮らしを脅かすものであるという危機感を共有し、先人が残してくれた豊かな環境を次世代に引き継ぐため、2050 年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとすることを目指す決意の証として、ここに「ゼロカーボンシティ」を宣言します。

2025 年２月 27 日

龍ケ崎市長　萩　原　　勇